

槐

かい

岡井省二創刊

創刊30周年記念特集号
令和3年7月号



令和三年七月一日発行 第三十一巻第七号 通巻第三六一号 (毎月一回一日発行)
平成三年九月十八日第三種郵便物認可

槐

30周年記念特集号

令和3年7月号 第361号

目次

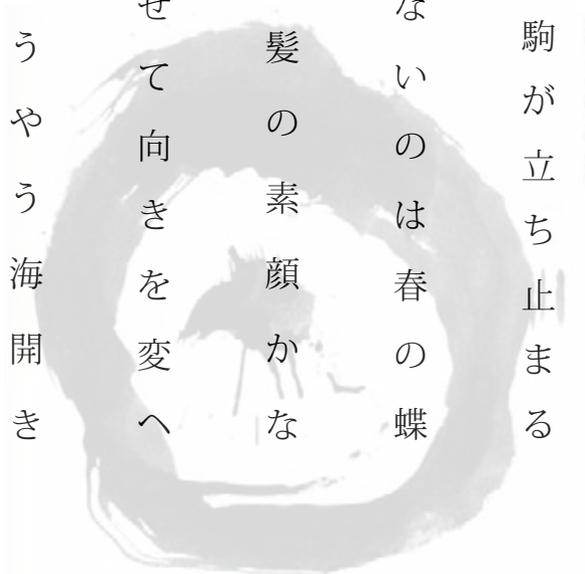
「槐」創刊30周年を迎えて	高橋 将夫	2
槐賞および槐安集・槐市集同人推挙にあたって		
槐賞発表 / 槐安集作家推薦		
新同人推挙 / 令和3年度役員		
特集Ⅰ 「槐」創刊30周年に寄せて		7
特集Ⅱ 「槐」創刊30周年記念作品		9
特集Ⅲ 「槐」創刊30周年記念文集		73
特集Ⅳ 俳句と心	高橋 将夫	84
特集Ⅴ 岡井省二 人と作品	高橋 将夫	112
特集Ⅵ 季語論	高橋 将夫	120
特集Ⅶ 槐賞受賞者一覧		126
特集Ⅷ 巻頭句一覧		129
第13回文学の森賞		130
「俳句界」5月号より「投稿」		130
特集Ⅸ 「槐」総目次		131
前途やうやう	高橋 将夫	144
春秋抄	高橋将夫推薦	146
心の風景 (54) 小藤博之・三木 亨		147
特別作品「えつちやん」	竹中 一花	148
360号特別作品評	岩下 芳子	150
槐安集	同 人	151
槐市集	同 人	156
「運河」5月号より転載		162
他誌散策	中田 光介	164
日月抄	高橋将夫選	165
槐集	高橋将夫選	166
槐門拾遺	中島 陽華	176
銀河往来	高橋 将夫	177
句会報		179
句会案内		184

前途やうやう

高橋将夫

野を駆ける春駒に駄馬なかりけり
盛んなる時にも春の落葉かな
諫言は田楽に串刺すごとく
男だて雉のその声その姿

思ひ出が一つ古巢に忘れあり
行く春やラストを知つてゐるドラマ
たんぽぽや千里の駒が立ち止まる
目に入れて痛くないのは春の蝶
菖蒲湯の匂ひの髪の素顔かな
吹流し鯉に合はせて向きを変へ
君たちの前途やうやう海開き



春秋抄

高橋将夫 推薦

子鳥の静かなりけり自肅中
ひかりの被て花満開ぞ吾もまた
満開の櫻にみたる覚悟かな
人肌の温もりあらん春の月
花大根の浮世ばなれをしてゐたり
狙撃手の眼をもて花を弔へる
二ふ上かの山を揺する牡丹の大笑ひ
けがれなき真白の愛や花卯木
何事もなき顔を白くしてシャボン玉
芽柳や風吹かぬ日の所在なし
耕すは天の根元の柵田から
復活祭壇上に置くアクリル板
もうひと踏ん張りせねばと残る花
乗ればもう引き返せないと花
古池の月取る夢を見せる
春耕の人鎌の柄に顎のせ
ぼうたのいや初瀬歸りの串団子
大群の内より出でし鹿の子かな
かたちの花遠き日の孤独感
春惜しむ水音ひびきくる樹海

加藤みき
中島陽華
雨村敏子
近藤喜子
瀬川公馨
柳川晋
熊川暁子
江島照美
寺田すず江
岩下芳子
有松洋子
田中信行
岩月優美子
藤田美耶子
平野多聞
近藤紀子
竹中一花
前田美恵子
中田禎子
吉田順子

えつちゃん

竹中一花

えつちゃんのさくらと思ふ櫻かな
風穴の岬に白き春日一差し
等伯の猿と出会うて春の山
山鳥の羽置く布留や七支刀
空色の風切る翼夏兆す
葎切のこゑを背中に流れ橋
かはせみの青き羽撃き青き風
川辺りに恋点点と夏謳ふ
秋風を走る保護犬草に入る
谿紅葉お礼参りの頭に触れり

特別作品

稲妻や豆腐の焦げし匂ひする
行く秋の雲追ひかけて若狭かな
秋惜む若狭に夫の声残る
喉咽とほる雪の匂ひの白さかな
雪しんと早暁の町動きだす
天上に顔の揃うて新酒かな
初詣旧土佐藩の稲荷神
白鳥の空に省二の遊びごゑ
節分の鬼や善哉ふうふうと
もう一度えつちやんと呼ぶ春初め

槐集

高橋将夫選

こころ 今天界にあり花電車
枚方 阪倉 孝子

恙なき心を杖に青き踏む
哲学になるまで舞ひし花吹雪
藤波の寄せくる胸や夕茜
春満月胸の鼓動へ雫あり
花吹雪媚葉のやうに人を麻瘦
守口 三木 亨

火の上で海を抱きたき黒鮑
刺す視線人には見せぬ雀蜂
窓の端に眼のかゆさうな春の蠅
卑猥なる形と知らず春の雲
やどかりの生まれ変はれど寄居虫か
岡崎 柴田 靖子
遠き日となる桑の実の甘き舌
地虫出でそれぞれの道さがし行く
力秘めかがやく種を蒔きにけり

ひつそりと残花たそがれ時の色

存念の季語に囲まれ春爛漫

揉め事も物柔らかにおらが春

道どうといふ独得の文化や亀鳴かす

門限は破るためかや春障子

鯉 幟 その志を 翻す

揺るる度月に近づく枝垂桜

獣毛の筆を出しをる桜の夜

つり橋の揺れを新緑吸収す

蔵王堂のまはりあまねく花の闇

春星を伴ひ渡し舟すすむ

鉄棒は三つの高さ入学す

蓬摘む足裏に土の記憶かな

ふらここや空に放てる我が心

春風の運び来るものみな楽し
生き死にの話聞きをる緋の牡丹

枚方 高野 昌代

橋本 順子

中島 昌子